

# 日本学術会議公開シンポジウム ワイルドライフサイエンス 「森、人、心の由来をめぐって」

近年、生態系サービスという概念によって生物多様性の保全により人間が受ける恩恵を科学的な根拠をもって説明することが可能になりました。しかし、自然と人間の間にはそれぞれの土地で育まれてきた歴史によってさまざまな違いがあります。とくに中・大型動物は人間と直接利害関係を持つことが多く、古来人間の心の中に深く住み着いてきました。それは宗教から見た自然観や人間観に色濃く反映されています。これからの時代に私たち人間が自然と豊かな関係を保つためには科学と宗教の見方を調和させていく必要があるでしょう。その可能性を世界の自然遺産に指定され、荒ぶる自然と人間との長い歴史を持つ屋久島で探ろうというのが本シンポジウムの趣旨です。

**2012年 2月12日(日) 13:30—18:00**  
**宮之浦公民館2階 入場無料**

(公民館は駐車場が狭いので、役場宮之浦支所駐車場又は NTT 前広場のご利用をお願いします。)

## ■■ 講演 13:30~17:00 ■■

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| ■「ワイルドライフサイエンスがめざすもの」        | 山極 寿一 (京都大学理学研究科教授)                    |
| ■「日本学術会議の取り組みと将来構想」          | 鷺谷 いづみ (東京大学農学研究科教授)                   |
| ■「ヒト科 4 属の比較からみた人間の心の由来」     | 松沢 哲郎 (京都大学霊長類研究所所長)                   |
| ■「悲願に生きる～愛と慈悲～」              | 梶田 真章 (京都・法然院貫主)                       |
| ■「原子力災害が野生生物と生態系とわれわれに及ぼすもの」 | 鷺谷 いづみ (東京大学農学研究科教授)                   |
| ■「久保川イーハートーブの世界と『樹木葬』」       | 千坂 げんぼう (一関・祥雲寺住職・久保川イーハートーブ自然再生研究所所長) |
| ■「岳参り—屋久島に息づく山岳信仰」           | 牧 実寛 (屋久島 楠川区長)                        |

## ■■■ 総合討論 17:00~18:00 ■■■

**主催: 日本学術会議**  
**共催: 京都大学野生動物研究センター**  
**屋久島生物多様性保全協議会**

■ お問い合わせ ■  
屋久島生物多様性保全協議会事務局  
電話 0997-44-2965(手塚)

■ 日本学術会議は、わが国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関です。今回、ワイルドライフ(野生生物保全)分科会の立ち上げにあたり、公開シンポジウムを開催します。